

# 世界産業の土台をつくる 熱処理炉



脱亜鉛装置



トレープッシャー式無酸化球状化焼鈍炉

## 日本ヒーテイング株式会社

### 炉メーカーとしての自負 世界が求める製品と技術

ものづくり大国、日本。数多の企業が世界トップレベルの技術を駆使し、日本の産業界を支えている中、日本ヒーテイング・山本義治社長は自社の立場をこのように語る。「当社は炉メーカーとして、設備を提供しています。つまり、産業界の土台をつくり出す企業です」。この言葉には、産業界における同社の役割への自負が垣間見える。

HEART to HEARTというフレーズを掲げ、連続式熱処理炉、ステンレスパイプの光輝焼鈍炉、ベアリングレスの無酸化球状化焼鈍炉、廃タイヤ再利用装置（回転レトルト式炭化・賦活炉）、銅合金焼結炉、そして脱亜鉛装置等、高度な技術を要する製品を産業界に送り出してきた。「営業活動することよりも、高品質の製品をつくり続けること。そうすれば、口コミで当社の製品が広がっていくのです」。山本社長は同社の営業に対するスタンスをこのように語る。

実際、同社の製品は、国境を越えて世界中に進出している。アジアでは中国をはじめ、マレーシア、シンガポール、中近東ではイラン、サウジアラビア、そしてヨーロッパではドイツ、デンマーク等、ありとあらゆる国と地域が同社のマーケットになっている。

また、製品の提供だけが同社の仕事ではない。時には山本社長自らが現地に赴き、技術指導を行っている。「誰でも使える炉をつくらなければなりません」と山本社長。顧客

を第一に考え、製品の品質を追求する。このこだわりこそが、世界が求める製品を生み出しているのだから。

### 日本のものづくりの課題を解決 脱亜鉛装置を開発

顧客から多岐にわたる要望を寄せられる同社。昨年、某自動車系列会社とタイアップし、脱亜鉛装置を設計・施工、販売に至った。

かつて自動車鋼板（亜鉛鍍金鋼板）スクラップを誘導溶解炉で溶解する際には、含まれている亜鉛により、ピンホールが発生する等、鑄物の品質を低下させることはもとより、炉への負荷も大きかった。しかし、脱亜鉛装置を用いることにより、亜鉛の除去率は約90%に、またそこから約95%の亜鉛を回収し販売することもできる等、様々な問題が解消された。「今までの溶解設備と違い、リサイクル性、省エネルギー性を促進する技術は、今の日本のものづくりにおける最優先課題を実現しています」と語る山本社長。今後、国内のみならず中国、東南アジア、アメリカ等、海外工場に納入し、展開していく予定だ。

### 技術の探求に情熱を燃やす 熱は創造の源

同社が手がけるこれらの炉は、全長が30mを超える物もあり、製作期間も長いもので8か月。複雑な構造を持ち、安全性や省力性が求められる製品ゆえに、その責任も大き

い。

もちろん、同社の魅力は顧客の要望に応えることだけではない。顧客への提案力もその一つ。「積極的に顧客へ提案をしています。そのためにも研究開発には力を入れてきました」と山本社長。技術の研鑽に努め、顧客のメリットを最大限に創出することが、同社の存在を高めている。ものづくりの真髄を「顧客を大切にし、良質な製品をつくること」と、山本社長は説く。産業界を支え続けてきたという誇りのもと、その真髄をさらに追求する。

#### 主な事業内容

球状化焼鈍炉、連続式熱処理設備、N2窒素型のベースガス浸炭炉、ガス製造等



山本義治さん  
代表取締役

#### Company Profile

日本ヒーテイング株式会社

住所 / 〒581-0075  
大阪府八尾市渋川町3-2-26  
設立 / 昭和49年10月  
資本金 / 1,350万円  
従業員 / 22名（平成21年1月現在）  
TEL / 0729-49-8048  
FAX / 0729-49-8148

大阪20

<http://www.nippon-heating.co.jp/>